

2022年4月21日

 三井住友海上火災保険株式会社  
 株式会社 ispace

～ ispace のミッション 1 において、打上げから月面着陸までを補償～

## 三井住友海上と ispace、初の商業的「月保険」実現に向けて合意

MS & AD インシュアランス グループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：船曳 真一郎、以下「三井住友海上」）と株式会社 ispace（代表取締役：袴田 武史、以下「ispace」）は、月面ビジネスにおいて発生するリスクを補償する新たな保険「月保険」の組成に関して両社が覚書を締結したことをお知らせします。2022 年末頃に打ち上げが予定されている ispace のミッション 1 に向けて、2022 年中に条件を確定させる予定です。

2019 年 2 月に三井住友海上が民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」のコーポレートパートナーに就任<sup>※</sup>する際、月保険の開発に関する協業を発表しました。ispace は、スケジュールや月への航路、着陸の際に起こり得るリスクなど、ispace の開発に関する情報を提供し、三井住友海上はこれらのリスクを分析してきました。このように、両社は打上げ以降、月遷移軌道上でロケットからランダー（月着陸船）が切り離され、月までの長期間の航行の期間や月面着陸するまでの間に発生する損害を補償する保険について引き続き協議を行い、打上げから月面着陸までをシームレスに補償する月保険を 2022 年中に契約予定です。

ispace は 2040 年代に 1,000 人が月に暮らし、年間 1 万人が月に旅行するような世界の実現を目指す「Moon Valley 2040 構想」を掲げています。また、地球と月の間に生み出されるシスルナ経済圏の構築におけるオーケストレーターとなることを目指し、主要な業界のリーダーを、パートナー、投資家、パイロードやデータサービスの顧客として月産業に巻き込むことを推進しています。月保険という新たなビジネスの創出は、月面市場の形成に向けた大きな一歩です。ispace はその産業創造の中心的プレイヤーとして、三井住友海上は新たに発生するリスクに対するソリューション提供者として、今後もより一層の連携を図っていきます。

※2019年2月22日ニュースリリース：[三井住友海上が民間月面探査プログラム HAKUTO-R のコーポレートパートナーに参加](#)



民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」のランダー

## 三井住友海上

### ■ 民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション1の進捗

ミッション1の打ち上げ時期は、現時点において、2022年末頃<sup>ii</sup>を予定しています。ミッション1で使用予定のランダー（月着陸船）のフライトモデルは、2022年4月現在、組立・統合の最終段階を迎えています。推進系の取り付けや組立は完了し、電氣的統合やペイロード、外部センサー等の統合が完了次第、2022年6月上旬<sup>iii</sup>に最終試験をドイツのオットブルンにて開始し、秋頃には打ち上げ予定地であるフロリダへ輸送し打ち上げの準備を進める予定です。

### ■ 株式会社 ispace Founder & CEO 袴田武史のコメント

「保険は月面開発にとっても重要な役割を持ちます。どんな事業でもリスクを低減する仕組みが必要です。月面事業にはまだその仕組みがありません。打ち上げから着陸までの包括的な保険の実現は、シスルナ経済圏実現に向けた新たな一歩となります。三井住友海上と協業させていただき、新しい挑戦を支える新しい保険を創出することで、新しい事業者がより参加しやすい環境、産業を作っていきます。」

## 会社概要

### ■ 三井住友海上火災保険株式会社 (<https://www.ms-ins.com/>)

1918年設立。三井住友海上火災保険は、2001年10月に、三井海上火災保険株式会社と住友海上火災保険株式会社の合併により誕生。2008年4月には、グループ全体のより高度な事業多角化を目的として、持株会社体制に移行。2010年4月には、三井住友海上グループ、あいおい損害保険株式会社、ニッセイ同和損害保険株式会社が経営統合し、「MS & ADインシュアランス グループ」が発足。

自動車、火災、傷害などの保険のほか、人工衛星打上げなどの際に加入する宇宙保険も手がける。

### ■ 株式会社 ispace (<http://ispace-inc.com/jpn>)

「Expand our planet. Expand our future. ～人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ～」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの3拠点で活動し、170名以上のスタッフが在籍。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行っている。

### ■ HAKUTO-R (<http://ispace-inc.com/hakuto-r>)

HAKUTO-R は、ispace が行う民間月面探査プログラムです。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の2回のミッションを行う予定です。SpaceX の Falcon 9 を使用し、それぞれ2022年<sup>iv</sup>に月面着陸ミッション、そして2024年<sup>v</sup>に月面探査ミッションの打ち上げを行う予定です。このプログラムは、月面データの取得サービスと高頻度の地球―月輸送サービス構築に向けた技術検証を行います。

<sup>i</sup> 2022年4月時点の想定

<sup>ii</sup> 2022年4月時点の想定

<sup>iii</sup> 2022年4月時点の想定

<sup>iv</sup> 2022年4月時点の想定

<sup>v</sup> 2022年4月時点の想定